

1月4日のウクライナ情報

安齋育郎

①ロシアのガルージン外務次官は、西側諸国による他国への干渉パターンを端的に述べた(2024年1月1日)

「そのパターンは単純だ。まず、素敵なスローガンを装ってどこかに干渉し、大混乱を引き起こす。そしてすべてが熱を帯びると、焦土を残して逃亡する」



<https://twitter.com/tobimono2/status/1741503554425348200?s=09>

②ウクライナの NATO 兵器による対口攻撃(2023年12月31日)

ウクライナはベルゴロド市中心部の民間施設に NATO 兵器(チェコ製)を使ったミサイル攻撃を開始した。

民間人 14 名、子供 2 名が死亡、100 名以上が負傷。

ロシアは国連安全保障理事会の緊急会合を招集し、ロシア当局者らは空爆の主犯は米国だと非難している。

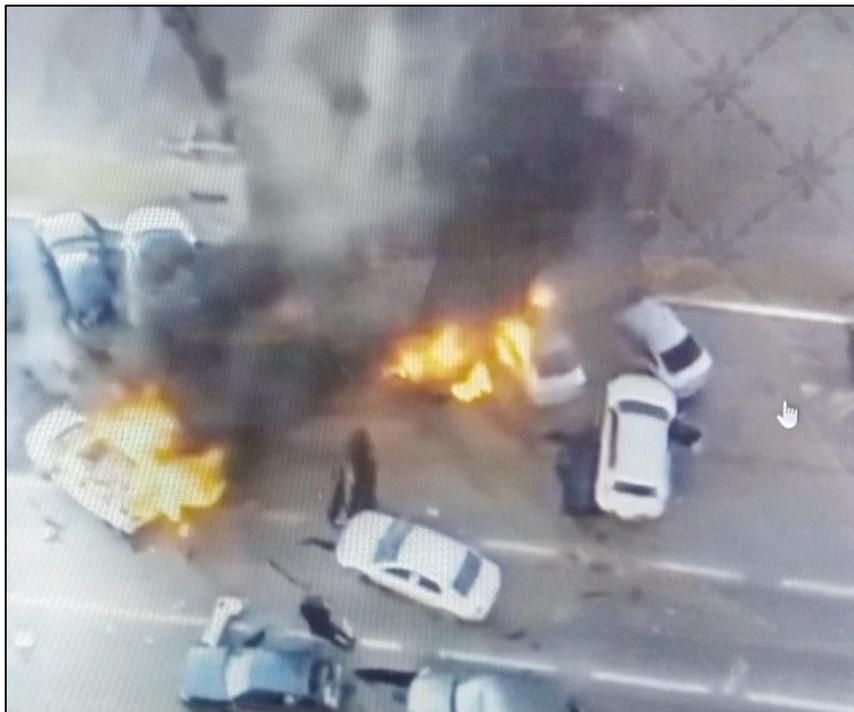
露アントノフ大使はメディアに対し、米国は「ロシアに対してハイブリッド戦争を仕掛けており、ロシア軍に対して最新の西側兵器を前線に投入している」と述べた。

西側諸国は、NATO への加盟と全面的な第三次世界大戦の開始を正当化するために、ロシアに報復とエスカレーションを必死に煽ろうとしているようだ。ウクライナ軍は壊滅状態にあり、これ以上持ちこたえることはできない。ウクライナの唯一の希望は、米国 MIL に介入してもらい、彼らに代わってもらうことだ。

ロシアは、NATO 兵器がロシア領土を攻撃するために使用された場合、(それは)越えてはならない一線になる、と警告している。ロシアとの本格的な激しい戦争、第三次世界大戦に近づいているのか。ウクライナは一昨年、露ココレフカにもドローン飛ばし、また銃声を上げ住民を脅かしている。(露ココレフカ友人からの情報)

<https://twitter.com/i/status/1741260480524722353>

<https://twitter.com/i/status/1741260480524722353>



<https://twitter.com/Junika2022/status/1741260480524722353?s=09>

③ウクライナの捕虜兵(2023年12月31日)

ウクライナの兵士が捕らえられた。彼は妻に電話することを許されたが、妻は彼が生きていて捕虜になっていると聞くと、彼を非難し始めた--「どうして降伏できたの？」

どうやら妻には別の計画(死んだ ”英雄の夫 ”にゼレンスキーが約束した金銭的補償おおよそ4000万円など)があったようで、夫の合理的な決断を完全に無効にしてしまった。

<https://twitter.com/i/status/1741132552646357073>



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1741132552646357073?s=09>

④【ロシア生活】2023 最後の動画～一年間応援ありがとうございました!!(ニキータ、2023年12月30日)

2023 年最後の動画は、久しぶりの生活版をお届け致します。モスクワのスーパーはどうなっているのか？また年末のモスクワの街の様子もお伝え致します。

<https://youtu.be/RY1sqbPOfM8>



<https://www.youtube.com/watch?v=RY1sqbPOfM8>

⑤ ウクライナの現実、米国と欧州の反応 ~ さらなる同情、援助なし(2023年12月13日、15日) More sympathy, No Aid(日本語字幕)

ご視聴ありがとうございます。お待たせいたしました。今回の動画は、2023年12月、ウクライナに対する援助を求めるゼレンスキーのワシントン D.C.訪問と欧州連合(EU)へのウクライナ加盟交渉開始の決議についてお伝えします。現時点での欧米の反応と日本政府の対応を皆さんはどうお感じになるでしょうか。最後までご視聴いただければ幸いです。

<https://youtu.be/PI-aRX03ivI>



<https://www.youtube.com/watch?v=PI-aRX03ivI>

⑥ フランスの出版物ル・パリジャンは、2023 年を「プーチンの年」と呼びました(2024年1月4日)

「2023年は『プーチンの年』と呼んで間違いない。ロシア大統領にとって2023年は良い形で終わった。時間は彼の味方だ」と同誌の記事は述べている。

ロシアの経済は着実に発展しており、ロシアは新たなパートナーを見つけて貿易の方向性を変えることで西側の制裁を回避する道を見つけた。

プーチン大統領の政策は、アラブ首長国連邦とサウジアラビアへの彼の訪問が示しているように、ロシアの孤立を防いでいる。

ロシアは前線で成功を収めている。

ロシアでのプーチン大統領の人気は高まっている。「彼がこれほど人気になったことはかつてない」と同紙の対談者は述べ、ジャーナリストらはこれが誇張ではないと考えている。



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1742469433019510984?s=09>

⑦【捕虜になったウク兵の話】(2024年1月3日)

クリャン・エフゲニー・ヴァレリエビッチ、1986年8月18日生まれ、第23機動部隊第一大隊、第二中隊、第三小隊の兵士だった。

—ウクライナ軍に入った経緯は？

通りで。朝、タバコを買いに出かけた。

「やあ。私たちと行こう」って。それが警察官と軍人だった。

「あなたの身分証明書を確認して調査する必要があるから、軍の募集者登録事務所に一緒に行こう」って言われた。既に病院で健康診断を受けて合格したような書類を渡された。どこの病院にも行っていないのに。それ以前は自分は兵役不適格だった。それが全てさ。

報告書を渡され、移動用のバスにさせられた。俺は警察を呼ぼうとして、バスに押し込まれた。スマホを取り上げられ、手錠をかけられて最初の移送先に連れて行かれた。そこで精神科の医師による問診を受け、次の移送先に送られた。それからドネプロペトロフスク地方のクリノツキに連れて行かれた。

訓練はイギリスだった。レドルハムかウエドルハムだ。確か町の名にWが付いてた気がする。5週間

だった。最初の 1 週間は森で寝泊まりした。3 日間ずっと森の中にいた。そこで匍匐前進、それとテントの張り方とか、その他、いくつか意味のない動作を教わった。走ったり飛び上がったりの体操だ。

それから、寒さ対策で何かを燃やしてフィンランド式サウナを作るとか。

2 週目は医療措置だ。これが大変で、医者がたくさんいた。気を失った者をどうやって運び出すか、医師と精神科医がやってみせた。3 週目は塹壕の中で戦う訓練だ。塹壕でどう行動すべきか、そこでの医療措置の訓練もされた。

4 週目は市街戦のやり方だった。どうやって町を占拠するか、どうやって民間人の家に入るかだ。どこにでも医師がいた。どこでも、ずっと我々と一緒に行動していた。教官は、彼らを紹介するとき軍医だと言っていた。みんな精神科医とか医師とかだった。

最後の 5 週目はすべてのおさらいだった。それら全てを少しずつ少しずつ復習した。1 日ごとに勉強したことを少しずつ復習するんだ。

我々は、ロシアはあらゆる困難に直面していると言われてきた。できる限り破壊しなければならないと言われてた。あらゆる方法を駆使して破壊しなければならないと。

捕虜にせずに、撃つなり殴るなりして亡き者にするんだと、そういうことを言われた。どんなことを勉強するにせよ、それが常に強調された。個々の戦略的な作戦の立て方も、自動機関銃の訓練も何もなかった。ほとんどの授業は閉め切った空間で行われた。

授業があつて、試験があつて、また授業があつて、また試験があつた。

俺は機関銃を渡されたが、手榴弾もなかった。4 本入りの縦帯 3 箱を渡された。何ていうんだっけ、5? 5-45 口径だったかな。それだけだ。

小隊で 2、いや 1 箱のチョコレートとキャラメル一つかみで 3 日から 6 日、陣地にいろと言われた。

塹壕を守れということだ。それから替えの防寒用の靴下をくれた。それと塹壕用の蠟燭。それだけだ。

機関銃は、すぐに弾づまりを起こした。試しに撃った途端だ。それで、機関銃は 2 人に一丁になった。無線もなかった。頭上をドローンが飛ぶ中で、数時間、じっとしていた。

一定の時間、普通に座っていたら、他の部隊の者たちがそこを通りかかって「なんで座ってるんだ？まだ掘っていないだろ。あれはウチの軍のドローンだ」と言われた。俺は「それを俺たちに教えてくれたか？」と言った。

だが、襲撃は迫っていた。そんなこと、知りもしなかった。銃声一つ聞こえなかったからだ。

死体が頭上から落ちてきた。俺と一緒にいた友だちが撃たれたんだ。俺が身を隠していると手榴弾が 2 個、飛んできた。そいつが爆発したあと、ロシア兵たちが「誰か、生きてる者はいるか？」と叫んだ。

俺は持っているものを全部投げ捨て、手を上げて降伏した。俺は塹壕の中にいて、何が何だかわからずにいた。彼らは、まるで自分の家のように塹壕に入ってきた。それが全てだ。

死体が頭上に落ちてきたとき、やっと何が起きているかわかった。それから手榴弾 2 つ。それでおしまいだ。

特殊部隊の一人はイギリス人だった。気分が悪いと言って病院にいたが、あれは逃げたんだ。病院からそのままイギリスに逃げ帰ったよ。彼らのうち 3 人は、イギリスの学校にいたとき、俺たちを後退させないよう何か指示をされていたが、結局、戻ってこなかった。つまり逃げたってことさ。当然だよ。

その陣地は 10 人で交代で守っていたが、俺たちが行ったときは空っぽだった。

俺だけがそこで生き残った。

それで、彼らについてどう思えばいいんだ？最悪の気分だ。だって、みんな「ロシア兵め。天国がお

前らを待ってるぜ」って言っていたんだ。

「素晴らしく順調」

「俺たちは勝ってる」

「前進あるのみ！」

「うまくいくぞ」

何が前進だ！

そう言われて俺たちは拍手で祝福されて来たんだ。

陣地は1日も持たなかった。俺たちが陣地にいたのは1日にも満たなかった。

「我々が圧力をかけている」だと？何が圧力だ！

<https://twitter.com/i/status/1742437132000804937>



<https://twitter.com/Kumi japonesa/status/1742437144650793266>

⑧元 CIA 分析官の弁(2023年12月31日)

ロシアは首都ドネツクの郊外にあるマリンカ市を奪還した。そこは過去 9、10 年間、ウクライナ軍がドネツク市民を砲撃するための基地として使用していた場所だ。ロシア軍はついにそこを占領したのだ。彼らはデバルツェボを通過し、その先へと進んでいる。彼らは下っている。地図を描くと、彼らはウクライナの兵士たちを包囲している。

だから... そのニュースが流れると、先日話したように、乾ドック(dry dock)の修理に入った船を爆破して、注意をそらす。あれは水陸両用の揚陸艦だ。私が最後に確認したとき、この戦争は海や黒海で戦われているのではない。陸上で戦われているんだ。だから、今すぐ何かを運ぶために使われているわけでもない船を1隻爆破しても、戦争が変わるわけではない。

実際にはウクライナは負けている。



<https://twitter.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1741130694569685196?s=09>